

症例検討

平成 28 年 6 月
茜部店

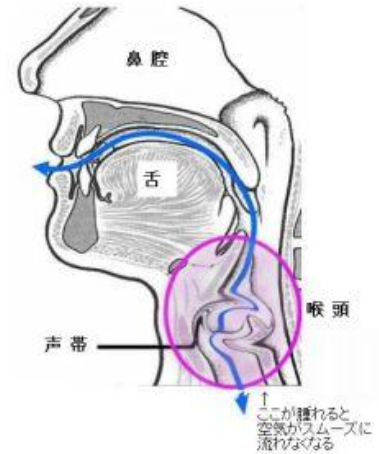
患者背景

1 歳 6 か月 男 体重 10kg
呼吸がおかしいと受診

処方

リンデロンシロップ 0.01% 15mL クループ時に 1 回分

クループ症候群の患者さんが何人かみえたので、
どのような病気なのか調べてみました。



クループ症候群とは

喉頭に炎症が生じ、腫れるために起こる下記のような症状を示す一群の疾患

症状

- ・声がかれる（嗄声）
- ・息を吸うときに胸のあたりがベコンベコンとへこんでいる。（陥没呼吸）
- ・顔色が悪く、くちびるの色が青紫色になる（チアノーゼ）
- ・息が苦しそう
- ・犬の遠吠えのような「ケンケン」という乾いた咳がある。もしくはオットセイの鳴き声のような咳がある

通常 4～7 日間で軽快

年齢、性差

3 か月～3 歳（とくに 1～2 歳ごろに多い）
秋～冬にかけて多く、女兒より男児にかかりやすい

原因

咽頭気管支炎（パラインフルエンザウイルス）

瘧性クループ（アレルギー素因がもともとある上でウイルス感染することによって起こる）

急性咽頭蓋炎（高熱と重篤な呼吸困難を伴い、急激な経過をとるインフルエンザ桿菌などが原因）

治療

ゆっくり休ませて、水分をしっかり摂らせることと加湿が大切。

- ・デキサメタゾン 0.15mg/kg 1回投与
デカドロンエリキシル、リンデロンシロップでは 1.5mg/kg
- ・ボスミン注 0.2mL を生食 2mL に希釈して吸入 30分ごとに反復
- ・超音波ネブライザーなどで冷湿気を吸入

考察

軽症例では、加湿だけで症状が改善することもある。家庭では、十分な加湿をすることが大切になる。冬は空気が乾燥しないように、常に濡れたバスタオルなどを部屋に掛けておくのも良い。

次回、投薬する際には、家庭でできることも伝えられるようにしたい。

参考文献

いろいろな病気（クループ症候群）

小児の薬の選び方・使い方